

宗教と平和 第15回

まとめ

— 寛容の文化を求めて —

1

1	4/13	(教室1) 導入—なぜ人は戦うのか?
2 3	4/19 4/20	(オンデマンド1) 戦争を理解するための諸概念 (教室2) アクティブラーニング
4 5	4/26 4/27	(オンデマンド2) 政治と宗教のはざまの暴力 (教室3) アクティブラーニング
6 7	5/10 5/11	(オンデマンド3) 絶対平和主義 (教室4) アクティブラーニング
8 9	5/17 5/18	(オンデマンド4) 正戦論 (教室5) アクティブラーニング
10 11	5/24 5/25	(オンデマンド5) 聖戦論 (教室6) アクティブラーニング
12 13	5/31 6/01	(オンデマンド6) 政教分離 (教室7) アクティブラーニング
14 15	6/07 6/08	(オンデマンド7) 平和と正義を実現するための課題 (教室8) まとめ、期末試験

2

Overview

1. 寛容の文化と憎しみの文化
2. 良心学の視点から未来社会の課題を考える

3

1

寛容の文化と憎しみの文化

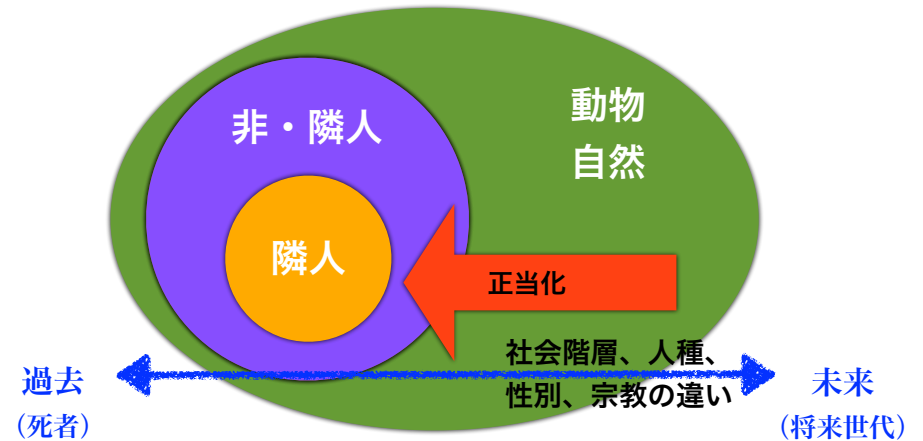
4

「寛容の文化」を育むために

- ・ 寛容の文化を育むための前提
 - ・ それを妨げる「憎しみの文化」の分析と克服
- ・ 「憎しみの文化」とは
 - ・ 「異質な他者」を際限なく生み出すシステム。「私たち」と「彼ら・彼女ら」（味方・敵）という「境界線」の増殖
- ・ 無関心により起動する暴力のメカニズム

5

「境界線」の設定と変遷



6

2

良心学の視点から 未来社会の課題を考える

7

西洋における「良心」

- ・ conscience ← conscientia (コンスキエンティア、ラテン語)
= con (共に) + scire (知る)
- ・ その元になるのは συνείδησις (シュネイデーシス、ギリシア語)
= συν (共に) + εἶδω (知る、考える)

8

誰と「共に知る」のか？

- 自己の内面的な対話（内なる他者との対話）【個人的良心】
- 他者と「共に知る」 【社会的良心】
- 神と「共に知る」 【信仰的良心】



9

「境界線」と良心

「共に知る」範囲を狭く設定することによって、人間は快適さ（コンフォート・ゾーン）や専門性を増すことができる。しかし同時に、自らに都合よく「共に知る」範囲を限定することにより、近現代の社会が、社会的弱者や「非生産的」人間を排除してきた歴史的教訓から学び続ける必要がある。

→ 「寛容の文化」の担い手としての「良心の共同体」の形成

10

新しい平和観の構築

- 人間中心主義、現在世代中心主義の克服
- 未来世代のための倫理（未来世代と「共に知る」）
- 自然・人間・人工物の間の平和

11

「良心」概念の拡張



技術革新によって、自然と人工の区別が曖昧になってきている（**自然と人工の非区別化**）。たとえば、ヒトゲノム編集、BMI（Brain-machine Interface）、人工知能など。

【参考】良心学研究センター編『良心から科学を考える——パンデミック時代への視座』岩波書店、2021年。

12